小學校用

廣嶋縣地理

全

特31
326

025972-000-1

特31-326

広島県地理　（小学校用）

名柄　勝之助／著

M30

ADC-3558

189
178

名勝之助著

小學校用廣島縣地理全

積善館藏版

特31
326

緒言

一本書は高等小學科第一學年生徒をして、廣島縣地理の大要を學はしめ、且つ地理學の要領を會得せしめんためこ編纂したるものなれば、行文頗る簡易の字句を用ひたり。

一本書記する所其大要に止めたりと雖も、必用の事項は總て蒐集したり、唯記すること簡單なるが故に、談話を以て之を補はざるべからず。

一地理の教授は端を教室に始め、學校、學校近傍に及び、次に市郡に入るべきを法とするが故に、教授事項の中心は之を學ぶものゝ位置に取らざるべからざるを以て本書は充分此點に注意したり、是れ此書の特色なり、左に其要件を錄す。

一、第二章より第四章までは、問答を以て教授すべき仕組にて且つ生徒復習の用に供す尚其發問を類推して他の事項を敷衍すべし。

二、第五章は唯事項の標題を掲ぐ、之れ前章を類推すべき者なれ

特31
326

189
118

緒言

一本書は高等小學科第一學年生徒をして、廣島縣地理の大要を學はしめ、且つ地理學の要領を會得せしめんために編纂したるものなれば、行文頗る簡易の字句を用ひたり。

一本書記する所其大要に止めたりと雖も、必用の事項は總て蒐集したり、唯記することの簡單なるが故に、談話を以て之を補はざるべからず。

一地理の教授は端を教室に始め、學校、學校近傍に及び、次に市郡に入るべきを法とするが故に、教授事項の中心は之を學ぶものゝ位置に取らざるべからざるを以て本書は充分此點に注意したり、是れ此書の特色なり、左に其要件を錄す。

一、第二章より第四章までは、問答を以て教授すべき仕組にて且つ生徒從習の用に供す尚其發問を類推して他の事項を敷衍すべし。

二、第五章は唯事項の標題を掲ぐ、之れ前章を類推すべき者なれ

ば也。

三、第七章、第八章は先つ自己の郡より始めて所謂近きより遠きに及ぼすべし、市及各郡の條下に特に境界を記したるは、教授聯絡の方便にて、次に何郡に移るべきかは、以て一に教師の選ぶ所に任す其本書の順序を前後することは編者の望む所なり。

四、地理用語の定義は順次記入したれば、最初其語に至りては說明を談話に止め、本書の定義を解明したる箇所に至りて充分會得せしむべし。

一、本書は四月より十二月に至る教授週數凡三十週間に修了せしむべきものとす、編者既に之を實際經驗したれば事項の過不足を見ること多からざるべし、但女子には談話數術の量を少くするを要す。

一、附錄伊呂波歌は七五調を以て詠したれば之に數へ歌の譜を以てし、或は軍歌譜を以てするも能く吟唱し得べし。

明治十九年一月

編者識

廣島縣地理

第一章　發端

地理を學ぶには先づ位置・方位・距離・面積・地圖などいふことを知らざるべからず、

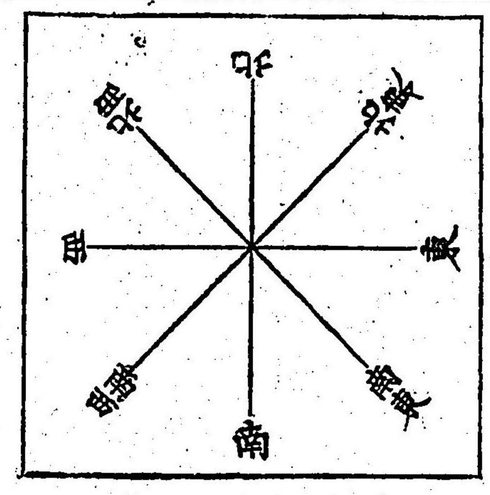
一、位置

物の在る場所を位置といふ。己の位置・机の位置・學校の位置といふが如し。

二、方位（又方角といふ）

日の出づる方を東といひ、日の入る方を西といふ、今東に向ひて立ち、兩手を左右に伸ばすとき

は、右は南よりして左は北より前は即ち東よりして、後は西なり。此東・西・南・北を四方といふ。



又北と東との中間を北東といひ、南と東との中間を南東といひ、北と西との中間を北西といひ、南と西との中間を南西といふ、此四ツの方位と、前の東西南北の四方を合して八方といふ。

方位を計るには、磁石を用ふ。

三、距離

距離といふ二ツの物の間の長さをいふ。例へば此机と彼机との距離、我居る處と彼の居る處との距離、學校と我家との距離といふが如し。

距離を度るには尺を用ふ。距離を呼ぶには丈・尺・寸・分・又は里・町・間・尺等の語を用ふ。

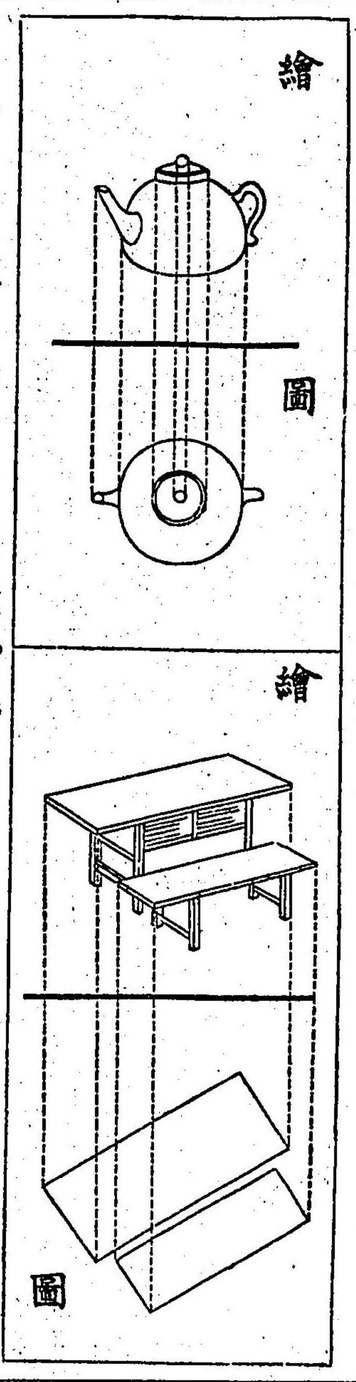
四、面積

面積といふ場所の廣さをいふ。例へば塗板の面積・教室の面積・學校の面積といふ類なり。

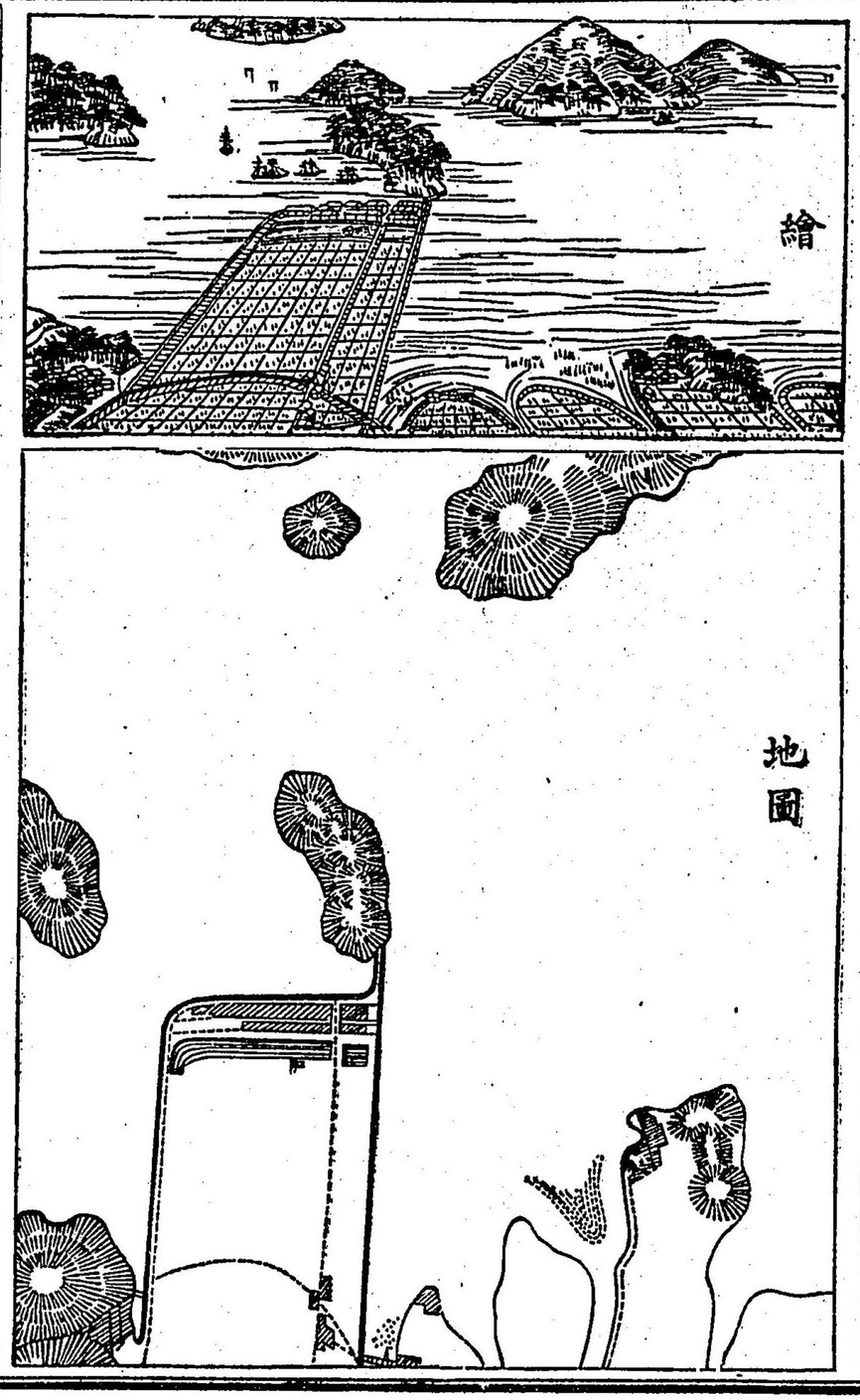
面積を度るにも尺を用ふ。一間四方を一坪（又は一歩）といひ、一里四方を一方里といふ。

五、地圖

器物・動物・景色など目に見えしまゝに寫したるものを繪といひ、此等のものを眞上より見て、其有樣を畫きたるものを圖といふ。



地上にある山川等の位置・大小等を示すに、之を眞上より見たる如く畫きたる圖を地圖といふ。



地圖の方位は上を北とし、下を南・右を東・左を西とするを法とす、

第二章　教室。

汝等よく考へて、左の問に答ふべし。

一、汝は今此教室の如何なる位置にあるか、此教室は學校の如何なる位置にあるか。

二、此教室にありて方位を考へよ、黑板の在るは何方位か、入口は何方位か、汝等の眷の方位は何と呼ぶか、左は如何、右は如何、北東は何れに當るか、南西は如何、

三、此教室は東西の長さ何間あるか、南北は何間か、天井の高さは凡そ何尺あるか、

四、此教室の面積は何坪あるか、

五、此教室の略圖を畫きて見よ、

第三章　學校。

汝等又左の問に答ふべし。

一、此學校の位置は如何。

二、此學校の東方に何があるか、西及南・北の方位に何があるか、門は何の方位に當るか、運動場及教員室は又何方位にあるか、汝の

家は何方位に當るか、

三、此學校は東西凡そ何間あるか、南北凡そ何間あるか、汝の家まて幾何の距離あるか、

四、此學校の面積い幾何あるか、又總ての教室及運動場の面積は幾何ゐるか、

五、日當り、空氣の通ひ、土地の高低乾濕、四方の眺望、通學の便否、用水の良否、樹木の有無、教員生徒の數、建物の數等に就いて、一々思ふ所を語れ。

六、此學校の略圖を畫けよ、序に我家の略圖を

も作れ。

第四章　學校近傍

汝等は尚ほ進みて左の問題を考へよ。

一、再ひ學校の位置を問ふ其郡名町村名を委しく語れよ。

二、近傍の町村名を語れ並に一々何方位にあるかを語れ、

三、此町村は東西の長さ幾何、南北の長さ幾何あるか。町村役場までの距離幾何ゐるか、

四、町村内にある大なる建物の名及何れの方位に

在るかを語ま、

五、最も近き山は何といふか、他に何々の山あるか、近傍にて最も高き山い何山なるか、其高さ凡そ幾何あるか、

六、町村内にある川を何川といふか、何處より來りて何處に流るゝか、此川ありて我等い如何なる便利を得るか、

七、近傍に海・島・港等あるか、其名は如何

八、東に行く道は何處に行くべきか、西及南・北其他の方位に在る道路の行方を語れ、最も廣き道は其幅幾何あるか、

九、町村内の人口は凡そ幾何あるか、住民の職業い如何、産物の主おるものい何か、近傍町村の主なる産物を問ふ、

十、氣候は如何、他町村又は他の遠き國などの異りたる氣候に就きて聞きたる事あれば話せよ、

第五章　郡内の地理

汝等は此より此郡の地理を學ぶべし、左の事項を一々考へ見て、知らざるい先生小學べよ、

一、郡名、　二、隣の郡名及び方位、　三、廣袤、
四、面積、　五、町村名、　六、人口、
七、地勢、　八、山、川及海、島等、　九、産物、
十、氣候、

第六章　市及各郡

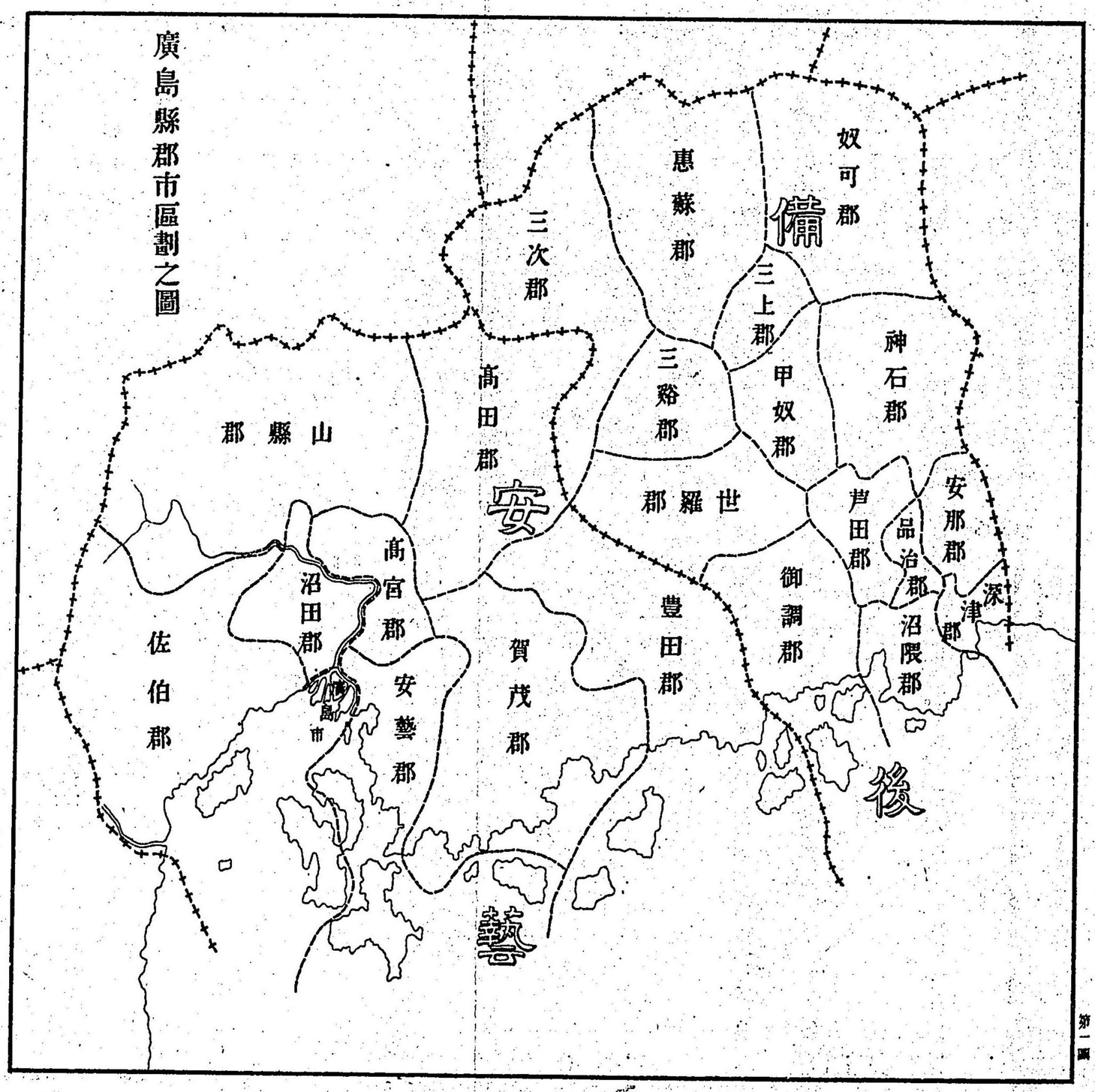
我郡の外小尚ほ多くの郡あり、今は之を大小の順小て書き並ぶべし。

一、山縣郡　……　三、三次郡
二、佐伯郡
四、賀茂郡

五、高田郡　……　六、奴可郡
七、豐田郡　……　八、惠蘇郡
十、安藝郡　……　九、世羅郡
十一、神石郡
十二、御調郡
十三、甲奴郡
十四、沼隈郡
十五、三谿郡
十六、沼田郡　……　十七、芦田郡
十八、高宮郡　……　十九、安那郡

二十、三上郡
廿一、深津郡
廿二、品治郡

右の二十二郡より外より廣島市あり、上段に書き並へたる八郡と廣島市とを合せたるは安藝國にて、下段より書き並へたる十四郡は備後國なり。我等の常ふ言へる廣島縣とは此安藝と備後と二國を合せ呼ぶものなり、故より我廣島縣には一市と二十二郡ありて、之を治むる役所を廣島縣廳と稱し廣島市よりあり。


廣島縣郡市區劃之圖
備
後
安
藝
奴可郡
惠蘇郡
三上郡
神石郡
三次郡
甲奴郡
三谿郡
高田郡
山縣郡
世羅郡
芦田郡
品治郡
安那郡
深津郡
沼隈郡
御調郡
豊田郡
高宮郡
沼田郡
佐伯郡
賀茂郡
安藝郡
廣島市

第一圖

(村)人家の在る一區域の土地をいふ、
(町)人家集り連りたる一區域の土地をいふ、
(市)町の甚だ大なる處をいふ、
(郡)町村の多く集まりたる一區域の土地をいふ、
(國)郡及市の多く集まりたる一區域の土地をいふ、
(縣)政治を爲す都合により郡及市を合しさる一區域の土地をいふ、

第七章　市及各郡の地理(一)

予は此より市及各郡の地理を教ふべし汝等の住める市郡より始めて之を學べよ。

〔廣島市〕

廣島市の圖を見よ、北より流れ來れる一の大川は七派に分れて海に入れり、中央

の二流は、東を元安川といひ、西を本川（又猫屋川）といふ。元安川ゝ架したる元安橋の東の端に「里程元標」あり、廣島より各地に至る距離は此元標を元として算するなり。

元安橋より西に行けば中島といへる町ゝて、東ゝ行けゞ細工町・横町及南北に長き大手町筋あり、此邊は廣島市中最も賑はしき處にて商家多く軒を並べ往來織るが如し、

中島の南方ゝ水主町あり、廣島縣廳のある處にて、廣島市役所も其近傍中島新町にあり。

元安橋より中島を過ぎ、本川橋を渡れゞ塚本町にて、此邊も亦商賣盛なり、是より西に堺町ゝ行り堺町二丁目より北ゝ行けば寺町ゝ至る、寺町は多くの寺院門を並べ其最も有名ゝて高大なるは佛護寺なり。尚ほ北に行けば沼田郡に入るなり。

堺町より直ぐゝ西ゝ進めば

天滿川、川添川、山手川を渡り佐伯郡ゟ入るなり。前ゟ言へる大手町筋は、一丁目より九丁目ゟ至る。一丁目より北ゟ進めば第五師團司令部に行くべし、司令部は元の廣島城内ゟあり。此城は昔毛利輝元公の建築にかゝり今僅かゟ天主閣を存す。明治二十七八年の役久しく城内に大本營を置かせられたり。

大手町九目丁より宇品港に行くべし、此港は西に宇品島、南ゟ金輪島ありて、能く風波を拒き水深き良港なり、其近くに安藝郡の似島あり。（三枚の圖を見るべし）

（港）船泊の便なる所を港といふ、

（島）陸の小くして四方水を繞らしたるを島といふ、

大手町筋より東にも數多の街衢縱横ゟ連り、其東邊に比治山あり。大手町一丁目より東に行きて京橋川、猿猴川を經て、大須賀村ゟ至れば山陽鐵道の停車場あり、其東、尾長村ゟ第五師團の練兵場ありて甚た廣し、尾長山其北ゟ聳江、山脈西に延びて一の小峯をなす、此峯を二葉山と稱し、山麓に饒津神社ありて、淺野長政公を祀れり、社

前い二葉山公園地あり。

尾長村より東すれば、安藝郡に入るなり。

（山）土地の高く起りたる所を山といひ其小なるを丘といふ、

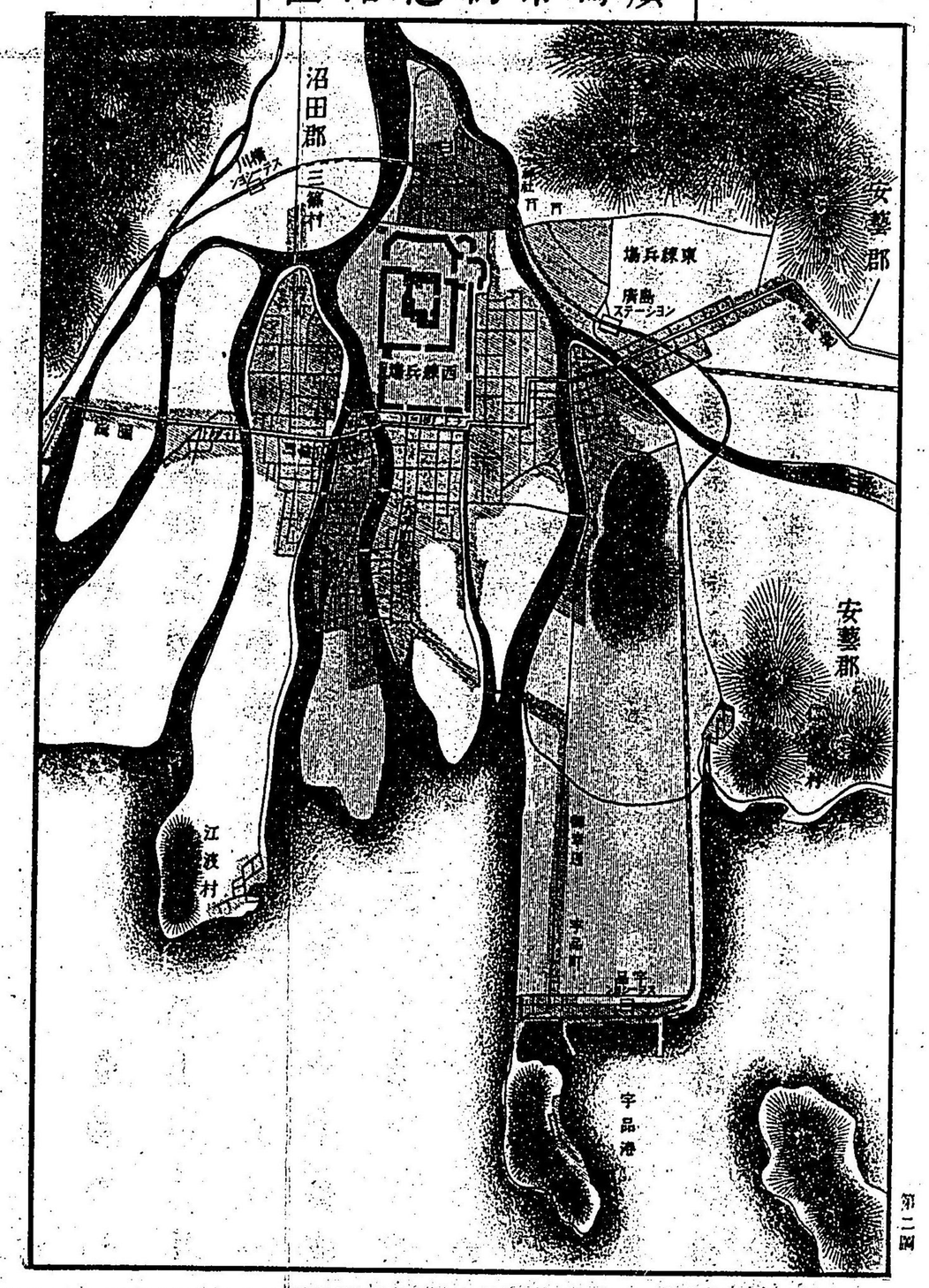
（山脈）山の連りたるを山脈といふ、

（峯）山の最も高き處を峯といふ、

（麓）山に登り始むる處を麓といふ、

前に言へるい、實に廣島市の一部にて、全市街い甚だ廣く、東西・南北各々凡そ四十町、面積一方里半ありて、百餘の町村相連り、其戸數二万五千餘人口凡十万を有す、學校は廣島縣尋常師範學校、廣島縣第一尋常中學校等大小數多く、官衙に廣

廣嶋市街之略圖



第二圖

廣嶋市街之略圖

人口凡十万を有す、學校は廣島縣尋常師範學校、廣島縣第一尋常中學校等大小數多く、官衙に廣島控訴院、廣島地方裁判所、廣島監獄署等壯大なる建築夥しく、商工の業頗る盛ふして、銀行會社も亦多く極めて繁華なる都會なり、傘、建具、海苔、牡蛎、綿、藍、手拭足袋等いづれも此地の産物なり。

境界 北、沼田郡 東、安藝郡 西、佐伯郡 南、廣嶋灣に臨む

〔佐伯郡〕郡の市聚を二十日市町と稱し、佐伯郡役所あり廣島まで三里半、材木及薪・炭い此地の主たる商品なり、其北小聳ゆる高山を極樂寺山といひ、南方海上よりある二大島を能美島、嚴島

と稱す、能美島より木綿、砂糖を出す。

嚴島は一小宮島といふ、風景絶佳、日本三景の一なり、北岸小嚴島町及嚴島神社あり社殿は平清盛の造營せしものにて市杵島姫を祭る、住民多くは工業小從

事し竹木諸細工・彫刻物を造る。二十日市町と廣嶋市との間小草津村あり漁業盛小て海岸の風景頗る佳なり。二十日市町より西小進めば大竹川小達す此川より西は山口縣なり、川の左岸小大竹あり多く紙を製出す。

（左岸）河源を背にし、河口を前にして立てば、其左に當る岸を左岸といひ、右に當る岸を右岸といふ。

郡の北部及中央部は、深山相重り中にも十方山、鬼城山、大峯の諸山は甚だ高し、郡の東北部に水、

内の湯と稱する鑛泉あり能く病を治す。

境界
北、山縣郡
東、廣島市 沼田郡
西、山口縣周防國 島根縣石見國
南、海

〔沼田郡〕郡の市聚を祇園村といふ、南、廣嶋市小行くべく北、可部町小至るへきを以て、旅客の此地を過くるもの多し、北西小峙つ山を阿生山、武田山、火山とす此近傍い土地極めて肥沃小て多く藍及野菜類を産し三篠村より松茸の良品を出す。

郡の北部は山岳重疊し、西い惠下・不明・窓の諸山を以て佐伯郡ヨ境す、惠下、不明の兩山い縣下第一の森林にて檜・樅・杉の良材を出す。

境界
北、山縣郡
東、高宮郡 安藝郡
西、佐伯郡
南、廣島市

〔高宮郡〕郡の市聚を可部町といふ、可部町い郡の中央小位し、名高き繁華なる町小て、出雲、國石見、國などへ往來する要地なり、川舩の便利あるを以て貨物の出入夥

し、産物は山繭紬、鮎鄰、鮎の漬物等なり、こゝ小沼田高宮郡役所あり。

可部町より南、沼田郡を經て廣島市に行くべし、路程四里半、道平坦なり、又東、高田郡吉田町に至るべく北、山縣郡に行くべし、然れども郡の地勢、東及北高く、西の方大田川に向ひ傾くを以て此兩道は何れも嶮しき坂路あり

大田川は源を佐伯郡及山縣郡に發し沼田、高宮兩郡の境界をなし、流れて廣嶋に出で、數派の分流となりて海に注ぐ、運送甚た便

なり、支流に水内川・三田川あり、全長凡三十里

（分流）河水の分れ流るゝものを分流といふ、

（支流）河に注く小流を支流といふ、

境界 北、山縣郡 東、高宮郡 西、沼田郡 南、安藝郡

〔山縣郡〕郡の市聚を都谷加計本地といふ。都谷は郡の中部に在りてこゝに山縣郡役所あり。加計は西部にありて大田川に臨む、こゝより常に高島市に往復する川舟の便

ありて貨物の出入多し。本地い東部よあり、南、高宮郡の可部町よ通し、北、大朝村を經て石見國濱田町ゟ行くべし。大朝村の東新庄村ゟ吉川氏の城趾あり。

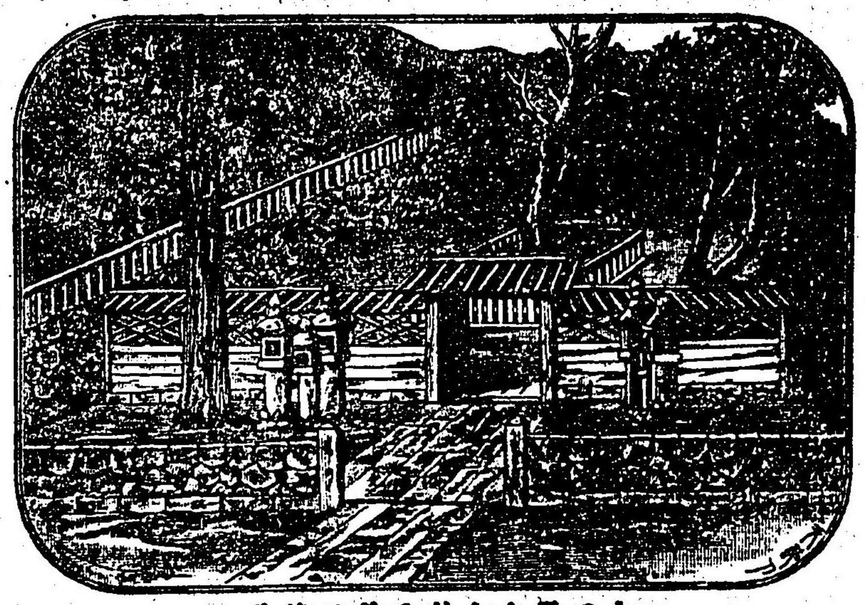
郡の面積い甚だ廣く、殆んど佐伯沼田兩郡を合せたる程なれども其十分の九い山よて耕地少く戸數も多からず、材木・炭・薪・山繭及多量の扱苧を産す、西北部よ苅尾山あり縣下第一の高山よて、此一部い殊よ奥山と稱し、土地極めて高寒、積雪丈餘に及ぶ。

境界 東、高田郡 北、島根縣石見國 西、島根縣石見國 南、高宮郡 沼田郡 佐伯郡

〔高田郡〕

郡の市聚を吉田町とす、

吉田町い郡の中央ゟありて廣島を距ること十一里なり昔、毛利氏の業を興したる地ゟて、三百餘年前い最も繁華を極めしが、今



吉田郡山毛利元就公墳墓

い山間の一小市聚となれり、然れとも三次町及出雲國と可部町及廣島市との間にありて其要路に當るが故ゴ今も商業盛にて市街い賑しく、高田郡役所あり、産物い麻を主とす、其北郡山ゴ毛利元就公の城趾及び墓を存す

郡の北部い高寒ゴて其水い東流し、又南部も山岳相連り其水い西流して三田川となる而して中央一帶の低地の水い東流して吉田川となる、東境ゴ峙つ山を大土山と稱す

境界 北、島根縣石見國 西、山縣郡 高宮郡 東、三次郡 南、豐田郡 賀茂郡

〔安藝郡〕 郡の市聚を吳及海田市町とを、吳い郡の南部ゴありて、和庄町及び近傍の村を併せ呼ぶ名なれども、和庄町最も繁華なり、元い淋しき漁村なりしが、近時軍港となりしより日々に繁盛ゴ赴く、第二海軍鎮守府及安藝郡役所あり、其北東ゴ峙つ山を灰峯と稱す。

海田市町は北部にあり、こゝより東・賀茂郡西條町に赴き、西・廣島市に至り、南・吳港に行くべし其近くに府中村あり此地に埃宮の古跡あり、社頭り多氣神社といふ。其北東に聳ゆる山を吳婆宇山といふ

郡の地勢は北東に高く南西に低く、海上數多の島嶼を有す其大なるものを江田島・渡子（瀬戸倉橋）島・蒲刈島と稱す

江田島は一の地峽を以て佐伯郡の能美島と續けり、砂糖を製出す、西岸に海軍兵學校あり宏壯なる建築なり。瀬戸渡子倉橋島は所によりて、名を異にせる周廻二十五里餘の一大島なり、古は一の半島なりしが、今は海峽を以て陸地に隔てり、此海峽を音戸の瀬戸といふ。

（地峽）二ツの陸地を連ねたる陸地を地峽といふ。
（半島）三方水を繞らしたる陸地を半島といふ。
（海峽）水の狹くしてこの海水を連ねたるを海峽又瀬戸といふ。

郡内海に臨める地多きを以て、漁業の盛なること實に縣下第一なり、産物は海苔・牡蛎・木綿等にて牡蛎は佐伯郡の牡蛎と共に、大坂地方に輸出

し、廣島牡蛎とて名高く、又蒲刈島より多くの蜜柑・石灰を出す、沿海の人民には航海を業とするもの多し

境界
北、高宮郡
東、賀茂郡
西、沼田郡・廣島市・佐伯郡
南、海

〔賀茂郡〕郡の中央に西條町あり、西・廣島市を距ること八里餘、こゝに賀茂郡役所あり、其西を流るゝ川を西條川といふ、南流して海に注ぐ、此川の沿岸の地は概ね廣き原野にて、下流に瀑布

あり、之を二級の瀧といふ。瀧の東方にある大山を野呂山と呼ぶ

(原)廣くして平なる地を原といひ、其高きを高原といふ

(瀑布)水の高き處より流れ落つるを瀑布といふ。

郡の地勢南に傾き其水は皆南流を、海岸に竹原町及三津あり

竹原町は郡中の良港にて漁船の寄港する

所あり、商業盛にて富家多し賴春水先生の出でし地なり。三津は多額の良酒を産するを以て甚だ名高し、酒造家多く攝津國の灘より北して、俗小下灘と稱す

境界
東、豐田郡
西、賀茂郡
南、海
北、高田郡

〔豐田郡〕

海岸より忠海町にあり、こゝより豐田郡役所あり。

郡の北部は山岳重疊し、其最も高きは北境小聳ゆる鷹巣山あり、南部は地味肥沃、戸口多し、海上より大崎島・生口島等の諸嶋あり。郡の中部を南流する川を沼田川と呼び、川の左岸より本郷あり て、其北西より小早川氏の城趾を存し、又其北東より佛通寺あり

大崎島は上・下二島あり、嶋民は多く航海を業とす、下島より良港あり、御手洗港といふ、港上桃林ありて花時の眺望甚だよし、多く桃實を産す、生口島より瀬戸田港あり、亦繁盛ある小港なり

境界

北、高田郡

東、御調郡 世羅郡

西、賀茂郡

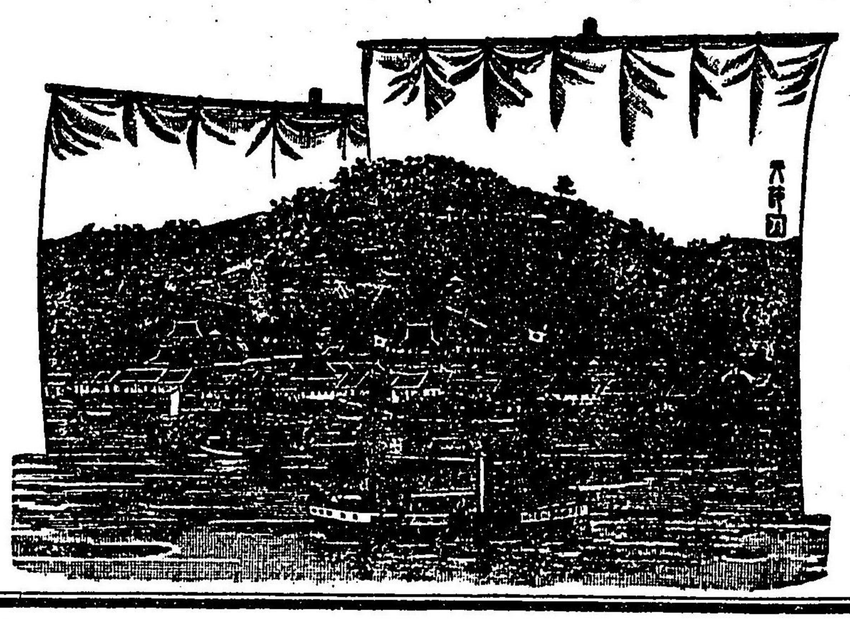
南、伊豫の諸島と相交る

前章既に述べたる如く已上の一市八郡を合して安藝國と稱す、則ち廣島市・及佐伯郡・沼田郡・高宮郡・山縣郡・高田郡・安藝郡・賀茂郡・豐田郡是なり

第八章　各郡の地理　(二)

〔御調郡〕　郡の市聚を尾道町・三原町と稱す、共に海岸に近りて相距ること三里半・此間海濱の眺望極めて佳なり。　郡の地勢南東に低く、北部は、山脈連亘し、海上向島・因島・岩子島等の屬島あり

尾道町は瀬戸を隔て、向島に對し、水深き良港なり、こゝに御調郡役所あり、其他諸官衙・學校・會社等多く人口凡三万あり、大家冨商擔を連ね商業頗る繁盛なり、廣島を



距ること二十二里（福山を距ること六里三次に至る二十一里）蘭席・酢・花崗石・錨・鐵器を出す

三原町い人口凡一万ありて亦商業盛なり、烟草及鑄物い此地の良産あり、中央ゑ城跡あり、小早川隆景公の築きし城ゑて古來有名あり

境界
北、世羅郡
東、芦田郡 沼隈郡
西、豊田郡
南、海

〔世羅郡〕 郡の市聚を甲山と呼ぶ、こゝに世羅郡役所あり。郡内山岳多く土地甚だ高し、南境ゑ宇根山、西境ゑ天神岳あり。

境界
北、三谿郡
東、甲奴郡 芦田郡
西、三次郡 豊田郡
南、御調郡

〔沼隈郡〕 郡の市聚を鞆町・松永とを、松永い同名の灣の北東岸にありて、鹽田多く、製鹽の業盛大ゑり、こゝに沼隈郡役所あり、其南方に阿武門岬ありて有名ゑる觀音堂あり、風景を以て稱せらる向ひの島を田島といふ。

（灣）陸の間に海水の曲り入りたる所を灣又は入江といふ。
（岬）陸地の海中に突出したる所を岬又は崎といふ。

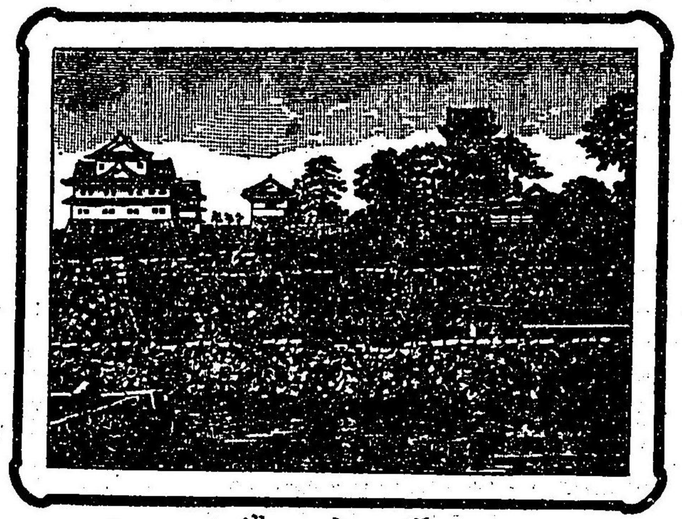
鞆町い南東海岸よりある良港あり、前面よ小島相連りて、風景の絶佳あること、土地の産物保命酒と共小有名あり、其西方よ沼名前神社あり素盞嗚尊を祀る。

郡内耕地多く、備後表と稱せらるゝ藺席の良品を産し、沿海の地い漁業亦盛あり。

境界
- 東、深津郡
- 西、御調郡
- 南、海
- 北、品治郡 芦田郡

深津郡

市聚を福山町といふ。


福山城

福山町は廣島の東二十八里（尾道まで六里 庄原まで十七里）小ありり、人口凡一万六千、市街繁盛小て阿部氏の城跡を存す、中小阿部神社あり、入川ありて滿潮の時い小舩を通ど貨物を送る、こゝ小深津安那郡役所及び廣島縣第二尋常中學校等あり、生絲・操綿・素麺を産す。

郡内總て平坦肥沃にて、只北部に藏王山と呼へる小山あるのみ、其西境を流るゝ川を芦田川といふ。

芦田川は源を世羅郡に發し、芦田郡を過ぎて南東に流れ海に入る、長さ凡十三里。

境界
- 北、安那郡
- 東、岡山縣備中國
- 南、海
- 西、品治郡 沼隈郡

〔安那郡〕 郡の市聚を神邊とす。郡の北部は山多けれども、南部は品治郡と共に、昔の穴海の故地にて平坦肥沃なり。

神邊は郡の南部にあり、往時は繁華なる處なりしが、水野氏治所を福山に移してより大に衰へたり、福山を去る二里許、（尾道に至る凡七里許備中國境まで一里半）綿布類を産す。菅茶山先生の出でし地なり、

境界
- 北、神石郡
- 東、岡山縣備中國
- 南、深津郡
- 西、品治郡

〔品治郡〕 郡中小市聚あり、新市と呼ぶ、縣下

最小の郡にて、面積凡そ三方里あるのみ。北部に蛇園山ありて、南部は肥江たる平地なり。西部に吉備津神社あり、傍に櫻山慈俊を祀れる櫻山神社あり。

境界
北、神石郡 芦田郡
西、蘆田郡
東、安那郡 深津郡
南、沼隈郡

〔蘆田郡〕郡ノ中部に府中市村あり。府中市村は南福山町、北庄原村との間にあり、交通の要路に當り、市街頗る繁盛なり、

此地に芦田品治神石甲奴郡役所あり、刻煙草・味噌を産す。

郡の北部は山多く、南部は平坦なり、郡を貫流する川を蘆田川といふ。

境界
北、神石郡 甲奴郡
東、品治郡
南、沼隈郡
西、世羅郡 御調郡

〔甲奴郡〕郡の市聚を上下と呼ぶ、郡中山岳重疊し地勢高峻なり、北東境上に御神山あり、其水は流れて三次川となる。

境界
北、奴可郡 三上郡
東、神石郡
西、三谿郡 世羅郡
南、芦田郡

〔神石郡〕郡の中央に油木と呼べる市聚あり、郡内山多く地勢險峻なり、東部に仙養原ありて郡中牧牛の業盛なり、神石牛といへる良種を出す。

境界
北、奴可郡
東、岡山縣備中國
西、甲奴郡
南、安那郡 芦田郡

〔三谿郡〕吉舎・三良坂を郡中の市聚とす、郡内山岳多く、地勢北西に傾き、水は皆北流す。

境界
北、惠蘇郡
東、三上郡 甲奴郡
西、三次郡
南、世羅郡

〔三次郡〕郡の市聚を三次町と稱す、郡中山岳連りて、鉄坑多く、又蠟石を産す、西境を流るゝ川を三次川といふ、郡の地勢は北・及東に高くして、山川皆

三次町松原景

此水流に向ひ傾けり。

三次町は尾道町を距ること二十一里餘、廣島市まで十七里餘、(吉田より六里)縣下北部の最も繁華なる市聚なり、南方海岸の地方と北・出雲國との交通の要路に當り、商業盛大にて、運輸の業亦甚だ盛なり、三次三谿郡役所及廣島縣第三尋常中學校あり、此地に霧の海と稱する奇觀あり、商品は魚類・米・鐵等にて、産物は麻・鮎・鯉等なり

三次川は源を甲奴郡より發し、西城川・吉田川等を合して、石見國に流れ江の川となる。

境界
- 東、惠蘇郡・三谿郡・世羅郡
- 南、豊田郡
- 西、島根縣石見國・高田郡
- 北、島根縣出雲國・石見國

〔三上郡〕郡中の市聚を庄原村といふ、其北を流るゝ川を西城川と名つく、西流して三次郡に入る。

庄原村は郡の西部に在り、南部地方より伯耆國及出雲國に交通する要路に當れるを

以て、市街賑しく、奴可三上惠蘇郡役所あり、生糸、紙及茶を産す。其東に上野地あり、周廻凡一里

（池）陸地の間に水を貯へたるを池といふ、其大にて自然に成れるものは之を湖と稱す。

境界
- 北、惠蘇郡
- 東、奴可郡
- 南、甲奴郡
- 西、三谿郡

〔惠蘇郡〕郡中比和・新市等の小市聚あり、南部地方より、北・出雲國に通ずる要路に當る。郡内の地勢高峻にて、山脈連亘し、氣候は甚だ寒し。北東境上に吾妻山・美古登山あり、北部山中には鉄坑多く又蠟石を産す。

境界
- 北、島根縣出雲國
- 東、奴可郡
- 南、三上郡
- 西、三次郡
- 三谿郡

〔奴可郡〕東部にある市聚を東城村と稱し、西部にあるを西城村と呼ぶ。

東城村は東城川の右岸にあり、廣島市を去ること三十里、鑄物及醤油を産す。

郡中山岳重疊し、土地極めて高く、人口は甚だ少し、所々より鉄を産す。山の大なるものを猫山・飯山・多飯辻山等とす。其水は分れて東西二流となる、一を東城川といひ、一を西城川といふ。

東城川は東流して神石郡に入り、東・備中國に入りて成羽川となる、其支流に帝釋川あり、上流に神の橋と稱する奇觀あり、岩石高く兩山に架して自ら一大橋をなせり、西城川は西流して三上郡に入る。

境界
- 北、鳥取縣伯耆國 鳥根縣出雲國
- 東、岡山縣備中國
- 南、神石郡
- 西、惠蘇郡 三上郡

前章に述べたるが如く、已上の十四郡を合して備後國と稱す、則ち御調・世羅・沼隈・深津・安那・品治・蘆田・申奴・神石・三谿・三次・三上・惠蘇・奴可・是な

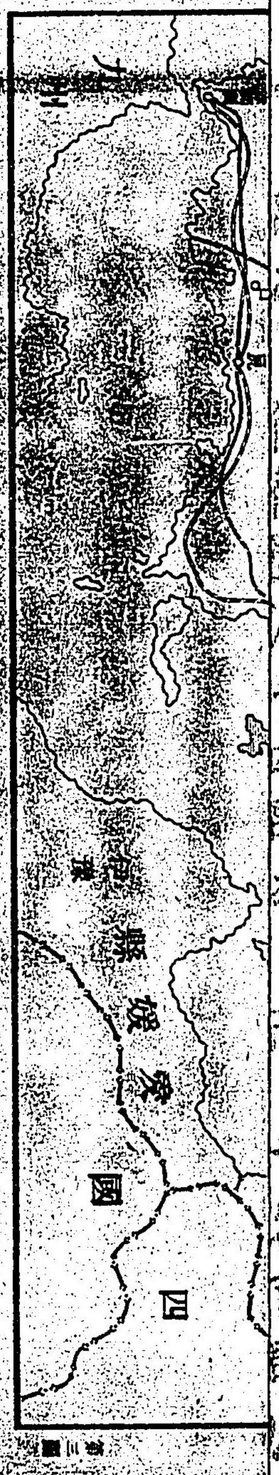
り。

第九章　廣島縣總說

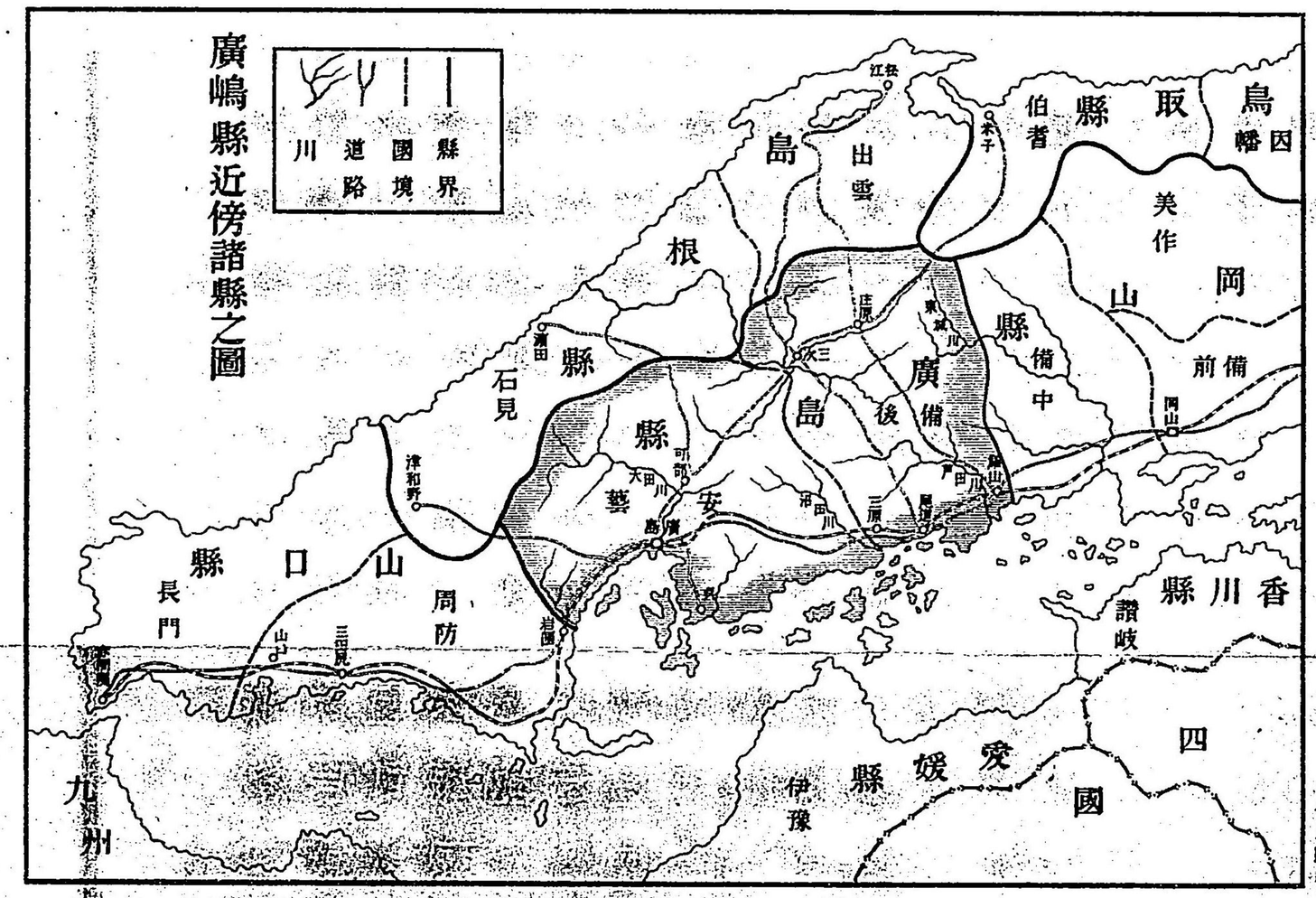
一、(管轄)廣島縣は安藝國と備後國との二國を管轄す。

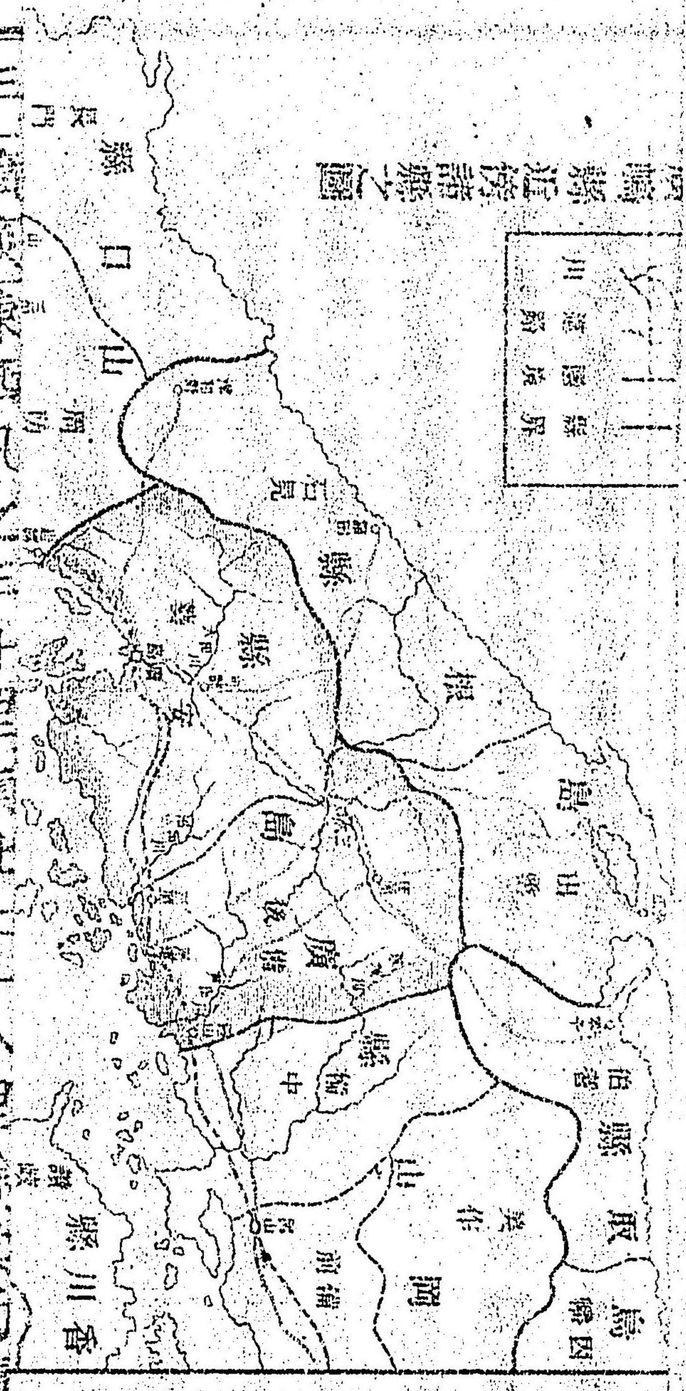
二、(境界)東は岡山縣備中國に連り、北は鳥取縣伯耆國・島根縣出雲國・仝石見國に界し、西は石見國及山口縣周防國に隣り、南・海を隔てゝ香川縣讃岐國、愛媛縣伊豫國と相對す。

三、(廣袤)東西凡そ三十里、南北二十八里餘、其面積五百十三方里あり。



四(區劃)汝等の已に學びし如く、安藝國に一市・八郡あり、備後國に十四郡あり、而して各市郡は


廣嶋縣近傍諸縣之圖
縣界
國境
道路
川
江津
木子
因幡
鳥取縣
伯耆
美作
岡山
備前
備中
出雲
島根
縣
庄原
三次
東城川
廣島
備後
福山
戸田川
尾道
三原
沼田川
可部
大田川
廣島
安芸
縣
石見
浜田
津和野
岩國
三田尻
山口
長門
周防
山口縣
香川縣
讃岐
四國
愛媛縣
伊豫
九州
第三圖



三、〔廣袤〕東西凡そ三十里、南北二十八里餘、其面積五百十三方里あり。

四、〔區劃〕汝等の已に學びし如く、安藝國に一市・八郡あり、備後國に十四郡あり、而して各市郡は又分れて數多の町村となる。

五、〔戶數及人口〕戶數凡二十七万・人口凡百三十万あり、北方山間は人家少く、南部海濱に至るに從ひ、漸々其數を増す。

六、〔地勢〕西北部の地面甚だ高く、山岳重疊し、南方に至るに從ひ、土地漸く低下す、海上には數多の島嶼あり、概して至る所山岳起伏し平地少し。

七、〔氣候〕南部海邊の地は氣候中和にて人身に適し、冬時も降雪少く、概ね温暖なり、唯北部の高地は夏時は涼しけれども、嚴寒の節は積雪丈餘に及ぶことあり。

八、〔生業〕人民の生業は農を主とし、市街に住むものは多く商業を營む、工業は盛ならず、北部山中には、採鐵を業とするもの多く、南部沿海の地には、漁業製鹽に從事するもの多し。

九、〔産物〕縣内産物の著名なるものは、米・麥・甘藷・綿・麻・藍・烟草・砂糖・鹽・疊表・鐵・牛・海苔・牡蠣・銘酒等

なり。

十、〔山岳〕山は大なるもの多けれども、概して禿山にて、野草雜樹を生するのみ、唯惠下、不明兩山は深山にて、北部地方にも稍樹林の繁茂せる山あり。

十一、〔水流〕南部諸郡の河流は皆南に赴き内海に注ぎ、北部諸郡の水は殆ど皆北流して石見國に入る、河邊は大概土地肥沃、耕作に適す。

十二、〔田畑〕縣内到る處、山岳起伏するを以て、平地少く、隨ひて耕地に富まず、強て海面を埋めて

田園となし、山腹を墾きて耕耘の地となす。

十三、〔漁場〕海岸線の長さは殆と八十里に及び、海面廣大にて、風浪常に靜穩なるを以て、沿岸及島嶼の地には漁業甚だ盛大なり、鯛・鰯・鰯・鰆・海鰕・海老・章魚・牡蠣等多くの海産あり。

十四、〔島嶼〕島は甚だ多く大小百餘に及び、南の方伊豫國に屬する島々と入り交り、風光甚だ佳なり、然れとも樹木穀類は一般に繁茂せざるが故に、多く甘藷を栽う。

十五、〔市聚〕海岸地方には繁華なる市街・良港多く又北・島根・鳥取諸縣に通ずる要路に當れる所には賑はしき市聚を見る、前章既に述べたる數多の市聚は、再び此に其繁華なるものより書き並ぶべし。

廣島市、尾道町、福山町、吳、鞆町、三次町、竹原町、三原町、嚴島町、府中市村、可部町、海田市町、吉田町、二十日市町、忠海町、庄原、東城、西條町、祇園、西城、本郷、加計、上下、松永、甲山、神邊、吉舍、三良坂、品治新市、恵奴新市、本地、油木、

又北部山間には期日を定めて商業を開く處多し之を市といふ、其盛なるを可部町及杭（御調郡）の牛馬市、東城の市、油木の牛市とす。

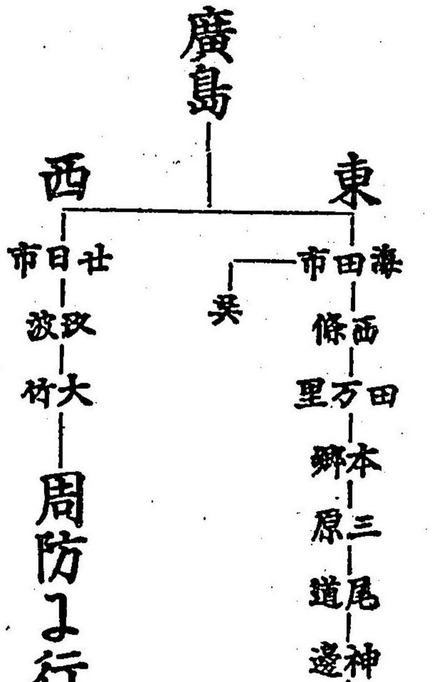
十六、〔道路〕道路には國道・縣道・里道の名をつけて種類を分てり、縣内には至る所山多きが爲、道路一般に平坦ならず所々に嶮しき坂路あり。

（國道）とは東京府、伊勢の太神宮、所々の師團司令部・鎮守府及各縣廳に交通する道筋をいふ。

（縣道）とは各府縣を連接し各府縣廳より各郡市役所に交通する道筋をいふ。

（里道）とは村と村及町村の間又町村内を交通する道筋をいふ。

國道は廣島市より東に行けば、岡山縣備中國に至り、西に行けば山口縣周防國に至る、此間合せて凡そ四十里あり、又安藝郡海田市と吳との間も國道なり、今其間に於ける市聚の名を左に記す。



縣道中主なるもの左の如し。

一、廣島より可部を經て大朝村に至る、此は石見國の濱田町に行く、凡二十八里あり嶮坂あれども全く車を通ずべし。

二、廣島より可部・吉田を經て三次に至り、二に分れて一は庄原西城を過ぎ、伯耆國米子町に至る、凡四十七里あり縣内は能く車を通ずべし、一は布野を過ぎ、出雲國松江に行き又は出雲大社に參詣すべし、凡五十里あり嶮坂あれども亦能く車を通ず。

右の外尾道・三次間、福山・庄原間、福山・西城間にも縣道あり皆車を通ず、又廣島より二十日市を經て、石見國津和野町まで凡二十三里間の道程は未だ車を通ぜず。

十七、〔鐵道〕鐵道は、廣島停車場より、東、海田・瀬野・八本松・西條・白市・河内・本郷・三原・糸崎・尾道・松永・福山の諸驛を經て岡山縣に入り遂に神戸に達す、此より大阪・京都を經て東京にも行くべし、廣島より西、横川・已斐・二十日市・宮島・玖波・大竹の諸驛を經て、山口縣に入り、遂に赤間關に

達す、廣島赤間關間の鐵道は、山陽鐵道株式會社の布設する所にて、廣島福山間の道程六十四哩(マイル)・廣島大竹間は二十二哩あり。

(哩)は英國の里法にて我十四町四十五間に當る。

十八、〔海路〕海路は甚だ靜穩にて、海上の眺望極めて佳し、海岸及島嶼の各港の間には、番船の往來するあり、漁船は宇品港より發して、東は吳・音戸・竹原・尾道・鞆の諸港を經て神戸に行くべし、此間百五十五浬(ノット)あり、西は宮島に寄り、周防の國新港等を經て、長門國馬關に行くべし、此

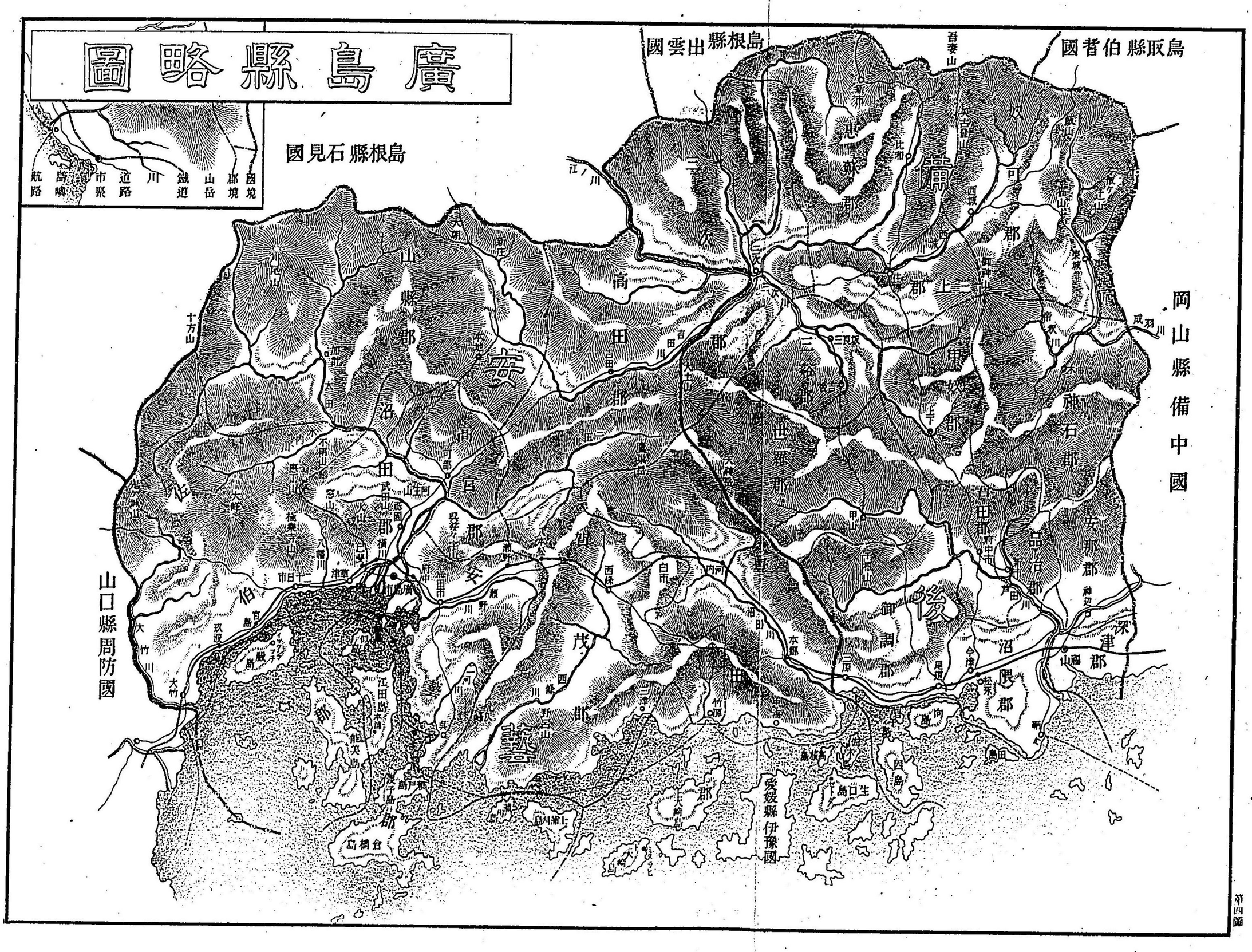
間八十五浬あり、又同港より江田島・吳・伊豫國三津ケ濱に航海するものあり。

(浬)は海里といふ、一海里は我十六町五十八間に當る。

小學校用

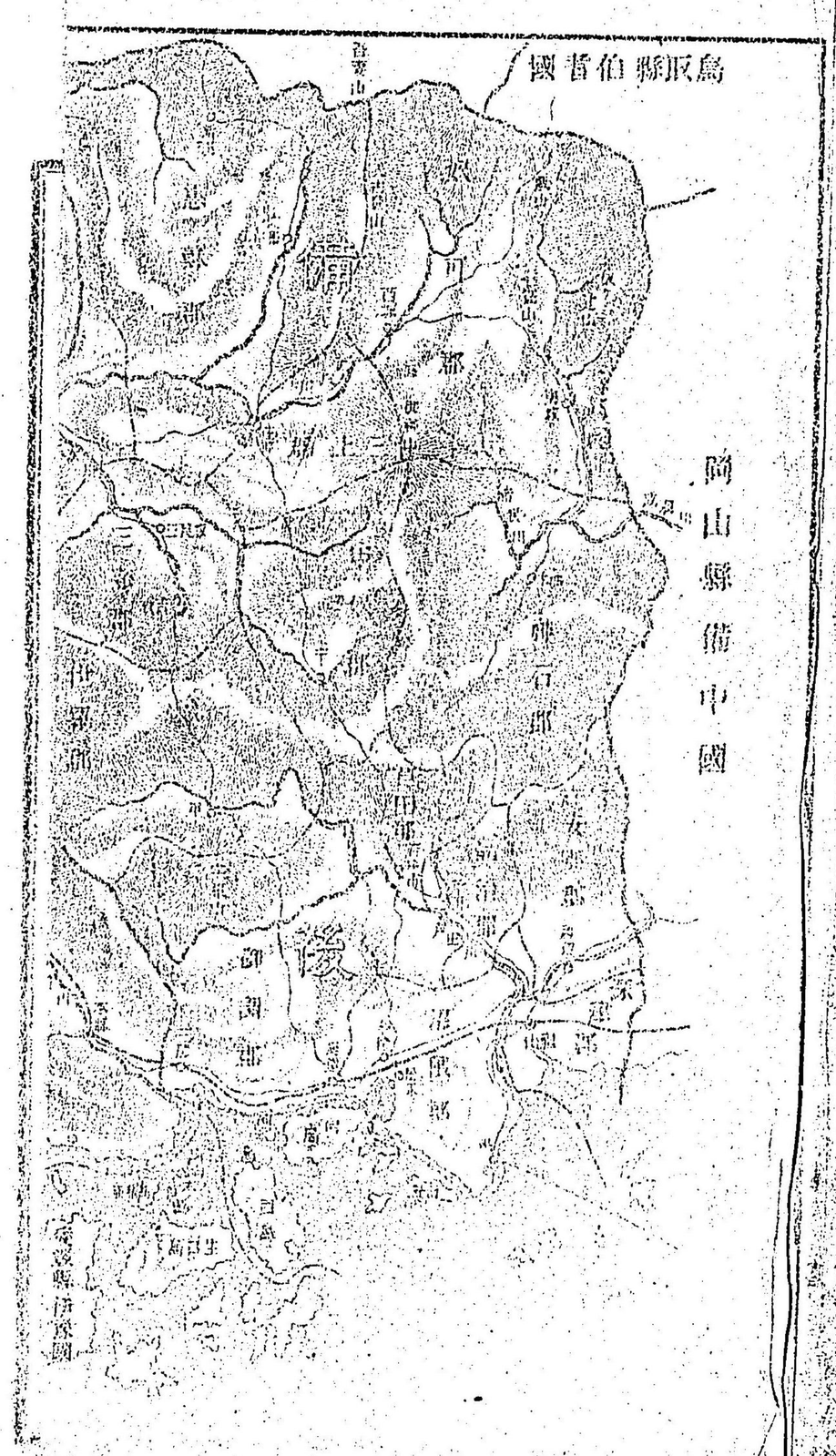
廣島縣地理

終


廣島縣略圖
島根縣石見國
島根縣出雲國
鳥取縣伯耆國
岡山縣備中國
山口縣周防國
愛媛縣伊豫國
國境
郡境
山岳
鐵道
川
道路
市界
島嶼
航路
安芸
安佐郡
高田郡
山縣郡
沼田郡
佐伯郡
賀茂郡
豐田郡
御調郡
世羅郡
三谷郡
甲奴郡
上下郡
三次郡
恵蘇郡
神石郡
品治郡
安那郡
深津郡
沼隈郡
向島
因島
生口島
高根島
大竹
廿日市
宮島
呉
江田島
倉橋島
竹原
三原
尾道
今津
松永
福山
鞆
三次
比和
西城
新市
吉田
可部
戸河内
白市
西條
府中
横川
廣島
宇品
戸田川
太田川
沼田川
西城川
江ノ川
十方山
吾妻山
大吉山
飯山
福山
鞆山
大竹川
八幡川
成羽川
帝釋川
神辺
山陽

第四圖

稱善舍藏版



（附錄）（一）

廣島縣地理伊呂波歌

（い）（區劃）一縣二ヶ國安藝備後、一市と二十又二郡、

（ろ）（境界）六縣七國うち繞り、我山海を圍みたり、

（は）伯、雲、防、石、備中は、陸地つゞきの隣り國、

（に）（廣袤）西より東へ三十里、南北二十八里半、

（ほ）（地勢）北部甚だ土地高く、次第に南に傾けり、

（へ）平地少く山多く、海には數多の島嶼あり、

（と）（人口）處々に住む人は、一百三十餘万あり、

（ち）（戸數）町村すべての家の數、數へて凡そ三十万、

（り）（生業）陸には農商盛にて、海には漁鹽の業繁し、

（ぬ）奴可惠蘇其外北境は、鐵採る人の數多し、

（る）（産物）類もまれなる産物は、備後表に安藝の鐵、
（を）苧、藍、米、麥さつまいも、煙草は縣下の産物よ、
（わ）綿、鹽、砂糖、海苔、牡蠣も、縣下南部の良産よ、
（か）（氣候）寒暑は概ね中和なり、されど北部は雪多し、
（よ）（河川）吉田、三次の兩川は、流れて石見の江の川、
（た）他の河水は南流し、最も長きは大田川、
（れ）（山岳）連峰木立淺くして、唯茂れるは惠下・不明、
（そ）其名も高き刈尾山、南北二海を望むべし、
（つ）連る山のこゝかしこ、鐵、銅を出すなり、
（ね）（交通）年々開くる陸の道、鐵道さへもとゝのへり、
（あ）波も靜けき海路には、漁船の往來いとしげし、
（ら）（廣島市）喇叭の音高き五師團の、本部ゝ安藝の廣島市、

（む）昔は毛利の本城ぞ、末の城主は淺野氏、
（う）宇品の港は征清の、戰と共に名も高し、
（ゐ）（呉）位置を選びし鎮守府は、要害堅固の呉港、
（の）能美、瀬戸、江田、嚴島、其前面をかためたり、
（お）（嚴島）音に名高き三景の、一ゝ即ちいつくしま、
（く）碎くる波に散る紅葉、月雪花のながめよし、
（や）（三次）山の奥ある三次町、縣の北部の大市聚、
（ま）まづ朝風に波さはぎ、はれて跡なき霧の海、
（け）（吉田）けふは淋しき吉田町、郡、山風音寒し、
（ふ）（福山）福山町は阿部氏の、城を定めし大市街、
（こ）（三原）小早川氏の城の跡、今も殘りて三原町、
（え）（尾道）得難き地利の尾道は、商業甚た盛なり、

（て）（鞆）天の造りし景勝を、占めて芳ばし鞆の酒、
（あ）（名所）安藝の府中の多氣の宮、神武のみかどの宮の跡、
（さ）西條川の廣の瀧、落ちて三十四丈あり、
（き）鬼神やつくりし神の橋、帝釋川まのゝりけり、
（ゆ）由来尊き高屋しまま、聳えて高き熊ケ峰、
（め）名所と聞えし糸崎は、西の舞子とたゝへたり、
（み）御手洗港の桃林、みのりも多く花もよし、
（し）（島嶼）嶋は數へて百餘り、其大なるは倉橋ぞ、
（ゑ）繪にもかゝれず島々の、つらゐる様は日本一、
（ひ）廣く積み出す安藝密柑、蒲刈島の産と知れ、
（も）固より山は小けれど、小富士が島の名は高し、
（せ）（結論）世界の事をも學ぶべき、學び始めの地理の歌、
（す）既に覺えし事々を、思ひ起して歌ふべし、

明治三十年七月六日印刷
明治三十年七月九日發行

定價金拾五錢

著者　名柄勝之助　廣島縣安藝郡海田市町四百拾七番屋敷

發行者　鈴木常松　廣島市鹽屋町八番邸

發賣所　積善館支店

印刷者　集英堂活版所　東京市京橋區山城町六番地

版權所有